阪神淡路大震災で倒壊した家屋

2×××年△月○日　阿寺断層を震源とする

下呂大震災発生

～その時あなたは？～

いつかくる巨大地震にそなえて、わたしたちは何をすべきか・・・

大震災から1年6カ月

2011年3月11日の午後2時46分、三陸沖を震源として発生したマグニチュード9.0、最大震度7の大地震。

東日本大震災では、死者1万5868人、行方不明者2848人（8月15日現在、警察庁まとめ）、震災や津波などで34万3334人の方が避難・転居を余儀なくされており（8月2日現在、復興庁まとめ）、当時の光景は未曾有の大災害として、わたしたちの脳裏に焼き付いています。

下呂市の活断層

わたしたちの住む下呂市では、萩原町山之口から南東に向かい、中津川市馬籠宿付近に至る全長約70kmにも及ぶ「阿寺断層帯」があります。

東日本大震災のように沖合が震源地でプレートのずれによって起こる地震は「海溝型地震」と呼ばれますが、阿寺断層が引き起こす地震は「内陸型地震（直下型地震）」と呼ばれ、市内のほぼ全域で発生する可能性があります。

この阿寺断層帯や高山大原断層帯（高山市周辺40km に分布する断層帯）がひとたび活動すると、平成7年に発生した阪神淡路大震災クラス（マグニチュード7.3、震度7）の地震が発生すると予測されています。

市内を延びる阿寺断層帯

9月1日は防災の日

（8月30日から9月5日は防災週間です）

その時、何ができるか？

阪神淡路大震災では、地震発生直後の約12秒間に非常に大きな揺れが発生しました。この間に、人々はどのような行動をとったかをアンケートしたものがあります。

これによると、「何もできなかった」が約4割で、「自分の身を守るのに精一杯」が約2割という結果でした。

巨大地震に対しては、実際には〝何もできなかった〟ことがわかります。

また、犠牲者の方の死因の約7割が、「家屋、家具類などの倒壊による圧迫死」によるものです。（圧死、窒息72・3％・外傷性ショック7.8％・焼死7.4％・その他12・5％）

いつ起こるかわからない地震に対して、普段からの備えが大切です。

（参考・「阪神淡路大震災における消防活動の記録」神戸市防災安全公社・東京法令出版）

写真1：新潟県中越沖地震で倒壊した家屋

わが家でできる防災・減災対策

近年頻繁に起きている地震災害に対して、私が取り組んでいる「わが家の防災」は、常に家族の安全を考え、次のような対策をしています。

◆家具類を固定するだけではなく、背の低い家具や軽量家具を使用。

◆テレビは転倒防止マットを敷き、ひもで固定。

◆冷蔵庫も転倒防止を施している。

◆食器棚は備え付けで、ガラスには飛散防止シートを貼る。食器扉にも器具の取付。

◆サッシのガラス部分に飛散防止シートの貼り付け。

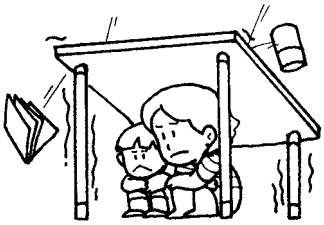
◆階段の壁に懐中電灯を設置。

◆寝室にはヘルメットと運動靴を常備。

◆非常用持ち出し袋にビスケットや水、電池不要の懐中電灯などの準備。

このような備えをしているわが家ですが、一番の課題は「災害時の認識不足」です。これでは、自助になりません。自助そして共助につなげていけるようにと、防災について家族で話していきたいと思います。

※下呂市ホームページ「家庭用防災マニュアルわが家の防災」をご覧いただき、参考にしてください。



下呂市女性防火クラブ
萩原支部長
二村チズ子さん
（萩原町上村在住）

私はここ数年、女性防火クラブで防災・減災について学ぶうちに、自助（自分の身は自分で守る）と共助（自分たちの地域はお互いに協力し助け合う）の大切さを知りました。

大規模な災害に遭遇していない私たちは、常に危機管理意識を持ち、地震や台風、ゲリラ豪雨を身近な災害であることを認識し、高い防災意識を持って生活することが重要だと感じています。

写真1：吉嶺充俊，地震被害写真集，http://geot.civil.ues.tmu.ac.jp/archives/eq/index-j.html，首都大学東京 土質研究室，2001-2011